

駐日メキシコ大使ご来館

カルロス・アルマーダ駐日メキシコ大使がご夫妻で来館されました。

大使は、お話の中で「メキシコは、日本が国連に提案した『世界津波の日』制定に際し全力で支援しました。日本が和歌山が、世界へ防災情報を発信する事に対して敬意を表します。



メキシコには地震・津波は少ないですが全くないということではありません。」

「稲むらの火の館」では、すべてがすばらしかったが、特に3D映画良かったとおっしゃってくれました。

最後に西岡町長と二人で「ギンヨウアカシア(ミモザ)」を記念植樹していただきました。

昨年来、「稲むらの火の館」へ来館された駐日大使様は11人目となりました。

インドネシアの新聞記者が取材に

インドネシア、コンパス新聞のルキ・アウリア記者が取材のために来館されました。

外務省が外国報道関係者を日本へ招へいし、政治、経済、文化等の幅広い分野に於ける最新の日本事情等に関する現地視察、インタビュー、政府関係者によるブリーフィング等の取材機会を提供する目的で来日されたものです。

今年は夜間の避難訓練でした

9月17日、広川町の津波避難訓練が実施されました。今年は、夜間の訓練ということで、参加者の皆様も動き難かったと思います。しかし、災害は結構夜間に起ることが多いように感じます。そのためにも、やはり夜間の訓練は必要なことでしょう。「稲むらの火の館」等の避難施設は、やはり自分自身が内部へ入って中の様子を知っておいていただくことも、いざという時のためには必要なことでしょう。今回参加された皆様にとって、避難の必要な時のためには良い経験になったことでしょう。

避難というのは、無いにこしたことはないと思いますが、必要な時には早い目に行動をはじめてください。それが自分の、家族の命を守ることだと考えます。近年はいろいろな災害が全国各地で起きています。そうした時に備えておきましょう。



3Dシアターの閉鎖について

「世界津波の日」が制定されたことに伴い、3D映画が多言語化されることになりました。この工事が10月8日から12日まで実施されます。この間、3Dシアターが閉鎖となり、別室での普通映画上映となります。ご来館のみなさまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご了承いただきますようお願いいたします。

「現代語訳 濱口梧陵傳」から

古老の伝説を考察すると、地勢がそうさせてしまうのか、昔から広村は津波の災害があるごとに、それに突き破られ、被災の度合いは隣村よりもずっと激甚であった。昔のことはさておき、近い過去においては天正年間(1573～1592)、津波の災害のため、現住戸(当時千六百戸余りであったという)の四分の一を流失したとの口伝があるが、なお九百戸が残っていた。そこへ宝永四年(一七〇七)十月の被災で現住戸の過半が流失し、亡くなった人は三百人以上であった。現在住民の中で旧家は、みなこの災害の時の遺族であるが、天正後の古記録はこのために殆どなくなってしまった。以来、次第に戸数が減り、嘉永、安政の頃(一八四八～一八六〇)にはわずかに三百戸に満たない数にまで減ってしまっていた。そもそもこのような衰退を来したのには他にも原因があるのだが、やはり津波の惨害が他村よりもひどいがために住民はこの地で安らげず、他方に移転するものが多かったからである。(濱口梧陵の広村惨害史より)

第1回目の「世界津波の日」

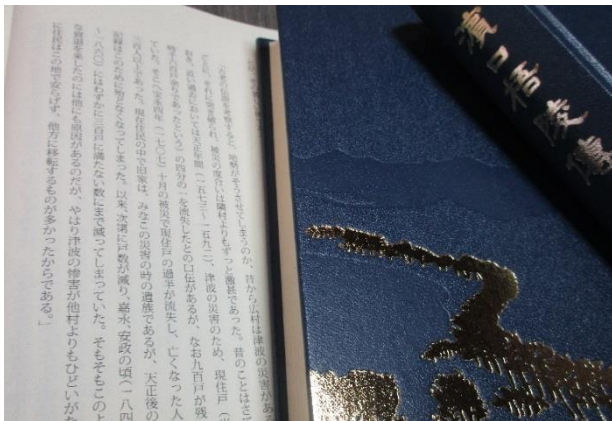
昨年の12月、第70回国連総会で採択された「世界津波の日」は、いよいよ今年11月5日に第1回目を迎えます。世界中で、津波避難訓練やシンポジウム等が開催されることでしょう。中身の濃い催しを期待したいものです。

思えば、広川町の「津波祭」は今年114回目になるのです。この「津波祭」にも第1回があったのです。それが、百年以上も続いているとはたいへんなことです。特に、災害を伝承する行事が百年以上も続いていることは専門家の間からもたいへん評価されています。



今年の第1回世界津波の日には外国からのお客様もお見えになるようです。また、11月中には「高校生サミット」へ参加される各国の高校生や中南米からの避難訓練参加者も来館されるようです。こうした海外からの津波防災関係者にとっても、その基本には「稲むらの火」や「濱口梧陵さんの」行動があるのでしょうか。そして、大災害を伝承している広川町の「津波祭」もまた注目されているのです。

広川町民の皆様も、わが町の伝統的行事がこのように世界から注目されているということに誇りをもち、更に後世に引き継いでいこうではありませんか。



「濱口梧陵傳」は1500円で販売中です

テレビ和歌山「はばたく紀の国」

10月16日午前10時30分から10時50分まで、テレビ和歌山の『「はばたく紀の国～教育は今」の番組で「世界津波の日」における地震・津波避難訓練～「稲むらの火」から学ぶ』が放送されます。広小学校の避難訓練の様子が放送される予定で収録されました。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

TEL : 0737-64-1760 / FAX : 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>

*開館時間：午前10時～午後5時（受付終了4時）

*休館日：月曜日・火曜日（祝日開館）

年末年始（12/29～1/4）

*記念館だけの入場は無料です。